

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ヤマウチ 豊西配送センター	階数	地上2F
建設地	浜松市東区豊西町 350他	構造	S造
用途地域	用途地域無指定・法第22条区域内	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,660時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年4月 予定	評価の実施日	2020年10月22日
敷地面積	5,789㎡	作成者	和田設計 和田
建築面積	3,588㎡	確認日	2020年10月22日
延床面積	3,731㎡	確認者	浜松市



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	これは、CASBEE静岡 2016版による評価結果である。本建物は、将来、本社倉庫の許容がオーバーすることが見込まれることから、2.0Km圏内にある当該敷地に建設するに至った。計画地は市街化調整区域であり、周辺が農業の盛んな地域であるため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続するように外構植栽を行った。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
対象外	倉庫は大空間を確保するため、壁プレス等を配置しない鉄骨ラーメン構造とした。工場の床には耐久性のある材料を採用し、メンテナンスが極力かからないように配慮した。	敷地周囲を緑化し、周辺環境へ配慮した。また、閉鎖的な空間にならないように見通しを確保し、境界部にはフェンスを設けないように計画をした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
すべての照明にLEDを採用し、省エネに配慮した。	ビニル系床シートにエコマーク商品を採用した。	気象データを把握し、雨水排水の抑制のため、開発行為の指導に基づき、調整池を設置し、敷地外道路側溝への負担軽減を図った。交通負担軽減のため、交差点部を避けた位置に、出入口を設置した。また、余裕のある荷捌きスペースを確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	株式会社 ヤマウチ 豊西配送センター	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.6	/5	がんばんろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.5	/5	がんばんろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.7	/5	がんばんろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.2	/5	がんばんろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例
 よい 4点以上
 ふつう 3点以上
 がんばんろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	2.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④躯体劣化等級2 / SUS7-0の採用。/給排水 配管ランクB 2種以上採用/給排水 構造材を痛めることなく更新ができる。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地の緑が連続するよう外構植栽計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨すべての照明にLED照明の採用。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫ビニル系床材にエコマークを採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LED照明の採用により、省エネルギー対策を実施。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	2.5	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰給水は、井戸水を利用 / 排水は浄化槽を設置し、災害に備える。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	2.7	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳余裕のある階高/荷重/空間を確保 壁比=0.109 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑敷地周囲を緑化し、周辺環境へ配慮した。また、閉鎖的な空間にならないように見通しを確保し、境界部にはフェンスを設けないように計画をした。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	2.2	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓計画地は市街化調整区域であり、周辺が農業の盛んな地域であるため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続するよう外構植栽を行った。 ■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ⑳ LR-3 2 2.2 ⑳	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑳ 敷地内温熱環境の向上 ⑳ 温熱環境悪化の改善